

市

74
th

展

2026

WAKAYAMA CIVIC
ARTS
EXHIBITION

第74回和歌山市美術展覧会

会期

1st 7/3(金)～8(水)

日本画

ギャラリートーク: 7月5日(日) 13:30～

写真

ギャラリートーク: 7月5日(日) 14:30～

2nd 7/10(金)～15(水)

書道・工芸

ギャラリートーク: 7月12日(日) 13:30～

3rd 7/17(金)～22(水)

洋画・彫塑

ギャラリートーク: 7月19日(日) 13:30～

会場

和歌山城ホール

1F展示室 10:00～17:00

入場無料

出品目録

主催 和歌山市・株式会社ケイミックスパブリックビジネス (和歌山城ホール)
後援 読売新聞和歌山支局・朝日新聞和歌山総局・産経新聞社・毎日新聞和歌山支局 (順不同)
お問い合わせ 和歌山城ホール 〒640-8156 和歌山市七番丁25番地の1 ☎(073)432-1212
和歌山市 文化振興課 〒640-8511 和歌山市七番丁23番地 ☎(073)435-1194

〔洋画〕

〔全体評〕

抽象・具象の多様なジャンルにおいて、独自の個性がひかる力作が揃った。

作品の根底にある作者の輝きや熱意が見る者の心をゆさぶります。美術の表現にキャリアや年齢の壁はなく、自分らしく、自分を追求し自らの表現に昇華させていく。そのひたむきに向きあう時間が作品に唯一無二の輝きをあたえてくれる。

○市長賞 うたかた 丸山理恵 和歌山市

〈評〉 よくぬり込まれた画面はけして重くなく、むしろ柔らかさに包まれている。この絵に見られる淡い色調は意図されたものだろうがけて曖昧ではない。背景の貝は始源の生命のはじまりを暗示しているのか。まっすぐにこちらを向いた女性はそのおだやかな画面をひきしめ、生きる意志を表わしているかのようだ。秀作である。

○市議会議長賞 Still Life with Shells 丸谷吉隆 和歌山市

〈評〉 空間処理の優れた作品。バランスのとれたモチーフの配置と余計な空間をつくらせない工夫がされている。統一された独自の個性的なマチエールが画面全体を包み写実力のみではない魅力的な美しい世界観を生み出すことができる作家だともいえます。

○教育委員会賞 EMO-3 藤田まゆみ 和歌山市

〈評〉 心地よい色合いのハーモニーが、コラージュにより増幅され、見た瞬間に何か引きつけられる。「これぞ美術」と、言った良い作品である。

○読売賞 rise II 阿部葉月 田辺市

〈評〉 コンピューターグラフィックではなくはじめてから手書きの画面であることに引きつけられる。影響はされているだろうが、人間的なあたたかさが感じられる。この作品を抽象具象と呼ぶのは間違いだろうか。描かれたものは見る側にとってさまざまな印象、想像をかりたてる。過剰に描かれたものは消したり、さらに浮かび上がらせたりしてベタな画面にならないよう工夫しているのが判る。riseという題にはこの世界の全体が止揚する興奮がある。秀作である。

○奨励賞 赤い廊下のある家 切山 梓 和歌山市

○奨励賞 Un Moment Doux 「やわらかな時間」 栗栖美奈子 〃

○奨励賞 春の光 松田年弘 〃

○奨励賞	日を獲るマゼンタ	米田貫雅	和歌山市
○奨励賞	ジャングルの音楽会	舛岡弘崇	岩出市
○奨励賞	impulse	田端莉子	印南町
○奨励賞	晩秋に憩	中西輝数	紀の川市
○入 選	青の記憶	廣畑美智子	和歌山市
	近江八幡の水郷	忠 光夫	〃
	咲き誇る	長井佐起子	紀の川市
	光源寺（春）	道屋悦司	和歌山市
	飛翔	中西信行	御坊市
	子供達を見守るまなざし	長尾加津子	和歌山市
	ともしび	大山江美子	〃
	楼門の雨	海老江公司	〃
	モンマルトル	橋本晃子	有田市
	ネモフィラときみと	新納菜々子	和歌山市
	Embryonic	坂 拓海	阪南市
	夜の山とオーロラ	畑 穂乃花	和歌山市
	糸を紡ぐ人	野上久美代	橋本市
	Cinq têtes	Blanche LHERM	和歌山市
	風景	小西善子	〃
	見返り美人	土井康雄	紀の川市
	四国八十八ヶ所参りとその仲間達	中石昌典	和歌山市
	要塞「木」	横田真吾	橋本市
	工場の町	藤本修二	和歌山市
	生きるということ	徳永統子	〃
	暴れる愛犬	堂脇ゆかり	紀の川市
	雪の伊吹山	船山文子	阪南市
	憂鬱な女神Ⅱ	阪本育代	岩出市
	色づく時間	江戸美鈴	和歌山市
	Smile	松原恵子	〃
	至福の時	坂本桂子	〃
	映える磐座	土田勝義	〃
	令和の風神雷神	堀田 博	〃
	ロックな彼女	北代和子	〃
	秋麗	山中敏男	〃
	文楽人形 お園	福田恵子	有田市
	庭に咲く	古谷 登	みなべ町
	翠のふるさと	田中千代美	紀の川市
	都会のバラ園	宮崎照美	和歌山市
	無題	栗山 透	〃
	湖に浮かぶきれいな島	林 花辺瑠	紀美野町
	Beautiful,Peculiar,and Extraordinary	糸子 旬	和歌山市
	第二の人生 旅に出ることにした	三谷明日美	田辺市
	探して、見つけて	永廣千瑛子	海南市
	無情	西口凜音	田辺市
	和	湯川詩織	白浜町

大物	北林叶望	紀の川市
やっと貴方に	廣田愛音	橋本市
夕方のコップ	中野邦亮	紀の川市
神社の引退タヌキ	宮川奈々	和歌山市
初まり	西 明架	田辺市
ほんやりとした午後	松浦柚香	橋本市
目線	松浦苺香	〃
ドイツの街並み	山本愛華	岩出市
酔生夢死	谷口 輔	紀の川市
蛍雪	宮下結衣	橋本市
想像	溝端歩和	かつらぎ町
甘煮	阿瀬絵里香	橋本市
風となる	山下 能	和歌山市
彼岸の雨	山下真央	〃

□無鑑査
○無鑑賞

DOPAMINE GUARDIAN 鈴木宏文 和歌山市

〈評〉 この絵に感じるワクワク感は漫画の世界にあるワクワク感が下敷きになっているのだろうが、おくゆきを細かく、ていねいに描き幾つかの次元を表現することで物語を強め、迷路的な画面を作りあげていることからくるワクワク感だろう。武器を持った下方の二人の若者は主人公だどこに向かって闘いを挑んでいるのか。分割された下世界はパラレル世界を表しているのか。謎が謎をよぶ面白さがある。秀作である。

○招待推挙

響き合う世界	岡崎ひとみ	和歌山市
Blue Fig and…	藤本知世	海南市
冬の野尻湖	杉林雅義	紀の川市
交叉1～6	寺口雄三	和歌山市
渋谷駅 2025	中尾吏加	海南市
乗鞍眺望	辻本 渡	和歌山市
オヤジコレモタノムワ	辻 晴美	〃
供生	中東照茂	〃
戯れ	津田京子	〃
サボテンと織りのある風景	松本芳子	〃
川沿いの家	中面弘次	〃
一座	岡本二美代	海南市
或る老夫婦の談笑	吉村明夫	和歌山市
それぞれ、迷子	中西瑞季	紀の川市
Welcome to the dreamland	井上育子	岩出市
海に眠る翼	檜 ふじゑ	和歌山市
マーレ	前田量子	海南市
夢	榎本敬子	和歌山市
ミモザ	松谷弘子	紀の川市

□招待

つつじ咲く頃	土井敏弘	和歌山市
提示'26	岡崎ゆみこ	〃
惑	田中淳子	〃
グランドキャニオン渓谷	山田康廣	〃
時代を構成する部分	無井由希子	平内町
ドンテン	佐藤 円	和歌山市
民芸の砦	中森順一	〃
蝶が飛んでいく	明渡和子	〃
カフェの住人〜マスカレード	玖本稔子	〃
風を待つ	土井久幸	〃
祭りの2人	岩本 芳	〃
敬	志賀清代子	〃
Let it be	池田章子	〃
響き	辻 勝己	〃
浮遊 2026-Ⅲ	堀 憲子	〃
朋 2026-Ⅲ	稲垣紀子	〃
雨の森	出口十糸	海南市
風景 2026	朝日卓志	和歌山市
料理は楽しい	吉田美紀子	和歌山市
奏・kanade	小林洋子	〃
パズルと赤いドレス	立本みさほ	〃
花の窟	楠瀬伸和	海南市
食材	辻 環	橋本市
情景	松原友美	和歌山市
おり	中西周代	紀の川市
誘惑	三阪篤子	和歌山市
阿波の想い	小原千冬子	〃
水無月	中野和夫	〃
春が来る	村下良子	〃
梅林	棗 多江子	有田市
秋の高野山	塩崎忠造	和歌山市
知らない世界	南 洋平	〃
私のプーケ	有本ふみ子	和歌山市
where are you	岩崎奈美	〃
ある風景	島田博雄	〃
午後	中村恵伍	〃
2016の風景	山本 實	〃

□審査員

〔日本画〕

〔全体評〕

今年は今までにない少ない出品数で非常に残念な思いです。しかし点数は少ないけれど、作品の内容は豊かである。

今後の課題として日本画の普及、応募点数を増やすなど山積みしていることがあります。前向きに捉えていきたい。

○市長賞 朝日を浴びて 栗本啓子 海南市

〈評〉 何処の海景色であろうか。穏やかに明けていく朝日の描写が実に上手く捉えている。

一日の幕開けの静かな海の表現もよく、手前をやや暗くしたことで前方の朝日を際立たせ、作者の巧みな表現力を称えたい。

○市議会賞 想う 増田章子 和歌山市

〈評〉 癒しを与える穏やかな微笑みを、見る者の心を落ち着かせ安らぎを与えてくれる、広隆寺の弥勒菩薩。仏像のおだやかな色調とつつみこむ深い色彩。すばらしい作品と思います。

○教育委員会賞 白冬 中尾吏加 海南市

〈評〉 雪景色を背景に前進する虎が画面いっぱい描かれている。

虎の表情は何かを語りかけてくるようで微笑ましくもあり迫力も備わっている。

前足の表情が何となく愛らしく感じられて猛獣を描きながら心温まる作品である。

毛並も繊細に表現されていて努力のあとがうかがえる力作である。

○読売賞 夏標 庭田幸美 和歌山市

〈評〉 日向葵の咲いた花や枯れた花を描いた作品はよく見るが、蕾をメインにした構図は珍しく、補色が複雑に絡んだ背景に大きく配置したことで独特の雰囲気を出したこの作品からは、作者の優れた感性がうかがえる。

誰もが良く知っている花なのに、この作品の中の蕾は夏の明るい花というイメージを覆えし、ある意味不気味なエネルギーに満ちていて引き込まれる。技術的にはまだまだ未熟なところもあり、今後の作品が楽しみである。

○奨励賞 たゆたう 河野ゆみ子 和歌山市

○入選 白鳥 宮原スズ子 和歌山市

□無鑑査

○無査 鑑賞

樹聲 南 智子 橋本市

〈評〉 大樹を見上げた力強い構図である。曲がりくねった枝が空に広がっていき、生命力を感じさせる。落ち着いた色彩が静かで爽やかな空気をつくっている。

時間をかけて丁寧に描き込まれ、作者がこの樹と対話しながら制作した思いが伝わってくる。無鑑査賞に相応しい力作である。

楚々 中西博久 和歌山市

石路 田中辰代 橋本市

富士の輝き 田中信子 海南市

□招待 紅ばら 高幣佳代 札幌市

イルミネーション 吉田見枝 和歌山市

秋桜 加藤叔子 〃

牡丹 中島宣子 〃

夕顔 中井裕子 〃

牡丹 吉田晃一郎 〃

牡丹 集田信子 〃

早く成長して欲しい 亀岡俊和 かつらぎ町

風そよぐ 岩本京子 和歌山市

空 吉本和代 海南市

□審査員 早月のころ 南口みどり 橋本市

月魄 清水 薫 和歌山市

薔薇 増田淑子 〃

初夏 角野千佳子 〃

舞妓 田中重造 有田市

〔書道〕

〔全体評〕

今年は昨年よりも少し出品数が増加しました。喜ばしい事です。出品された作品もそれぞれ意図を持って創作され、見ごたえがありました。創作にあたっては骨格古典の勉強が大事です。単に文字を並べただけの作品は観る人に意図が届きません。次回はすばらしい作品の出品を期待します。

○市長賞 わがやどし 小崎和子 和歌山市

〈評〉 さわやかに凜と咲くあやめの花を思わすつきりと心地良く、潤渴を意識した構成が美しい作品となり、季節感たっぷりの豊かな作品です。

○市議会議長賞 憚壽平詩 石井里梅 有田市

〈評〉 明時代の元路の書法を踏まえたすばらしい作品です。線の強さ、造形の妙味、文字の大小、作品の中に疎密表現も表わした手腕はさすが見事です。

○教育委員会賞 花を見る 小栗明園 和歌山市

〈評〉 二段構成で和漢朗詠集に立脚した地道な習練は如何に大切か、後に続く人の大きな指針になっています。

紙と墨色が良く合っていて、潤渴の変化・強い線条等、素晴らしい作品に仕上がりました。

○読売賞 題畫 壬辰五月…… 岡 京苑 和歌山市

〈評〉 自然な抑揚を伴った懐広い運筆で筆脈に淀みがない。文字中の余白を広くとった規模の大きな作品となっています。

○奨励賞 くるゝかと 小森育子 串本町

○奨励賞 ぬば玉の 宮本明幸 岸和田市

○入選 山家集より（二首） 狩野峰水 岩出市

和王員外晴雪昇朝 松原山恵(サユミ) 紀の川市

李商隠詩二首 津田敏舟 和歌山市

見章得一詩因次其韻二首 刀禰好江 海南市

高野山 中林祥江 紀の川市

うらうらに 井本舟香 和歌山市

はるたちてねの日に 鳥 祥香 〃

ゆくとしの 北野明秀 〃

村上仏山二首 鹿嶋寿宝 〃

あしびきの 中村友子 〃

わかうらに 松本明真 〃

雑詩十二首其三 上平桂翠 〃

み熊野の 山本陽煌 〃

心 正木明翠 〃

□無鑑査

○無査 鑑賞

柳宗元詩 山下芳翠 和歌山市

〈評〉 強く鋭い線が素晴らしく、行間・字間の変化に留意して布置の巧みな作品として魅力的である。

○招待推挙 月読み 木下和美 和歌山市

過侯城里有感 高木久琴 和歌山市

王漁洋詩 林 香舞 〃

闍怨 白石翠心 〃

楊廷麟詩 吉澤義則 〃

今来むと 佐藤和子 〃

長塚節の歌 川崎義典(大幹) 岩出市

吳嗣范の詩 長原葵香 和歌山市

筑波根の 岩岡里恵 〃

崔国輔詩 岩本菜光 紀の川市

音に聞く 久堀美香代 和歌山市

わびぬれば 上野朱煌 〃

つくばねの 西本紫舟 〃

巡り逢ひて 川上哉子 〃

遊龍門 岩橋瑞花 〃

道の辺に 網代知加 〃

夕顔の花 村山弥舟 由良町

張長公 赤坂松琴 和歌山市

ほととぎす 高橋佳舟 〃

王漁洋詩 松尾明苑 海南市

たなばたの 古川敏美 和歌山市

めぐりあひて 野田佳舟 日高町

快き夏来に 細尾光子 和歌山市

徐世溥詩 山口珠鶴(智子) 〃

山亭夏日 志茂珠香 〃

王安石詩 北畠瑞香 〃

王勃詩 中村東光 〃

ひぐらしの 濱口朱草 〃

燕遣民詩 坂本悠苑 有田川町

□招待 秀吉の歌 上田大愚 和歌山市

三字句 山本清雲 〃

夕されば 中原朱穂 西宮市

道のべに 池田一華 和歌山市

寂然不動 出口抱琴 〃

ももしきや 佐藤祥琴 〃

をちこち 角谷真寿 〃

無事 加納敬舟 和歌山市

『傳燈録』より 松村博峰 枚方市

良寛詩此堂 西村霖風 和歌山市

夕ぐれの	百溪陽舟	和歌山市
蘇東没詩	谷口和光	紀の川市
閑坐聴松風	高田佳鳳	和歌山市
徐惟貞詩	中浦研玉(研子)	海南市
蝶戯	小澤清華	和歌山市
姜宸英の詩	下村真歌	海南市
しばらくは	土肥歌舟	和歌山市
紅蓮	川瀬玲舟	〃
むかしみし	仲 玲舟	〃
七句(野草幽花各自香)	渡辺李光	〃
牧水の歌を	南 雅仙	紀の川市
山里に	松倉映舟	和歌山市
陸遊の詩	上野花園	〃
天の川	古川寿舟	岩出市
ひまはり	浅井香園	和歌山市
五言句(青山景物妍)	佐原草苑(ちづよ)	〃
めぐり逢う	吉本蒼琴	〃
巖扉松徑長寂寥	瀬藤翠琴	岩出市
多適	吉村祥雲	和歌山市
朝	田端弓子	〃
廣瀬青村詩	宮本龍勝	〃
鳶飛魚躍	南坂東英	紀の川市
蘇子美詩	三嶋昭苑	〃
獨坐大雄峯	田中清苑	和歌山市
西嶽華山廟碑	田村 剛	〃
虚子の句	静 一華	〃
秋風にいとどふけゆく…	岸畑由喜子	〃
五言(南風吹梅心)	中家光苑	〃
盧琦詩	小島健堂	和歌山市
天の原	小林明香	〃
白雲	戸村舟里	〃
運鈍根	小澤清湖	〃

□審査員

[写真]

〔全体評〕

昨年より少し出品数が減りましたが、風景を始めとしてスナップや造形などバラエティに富んだ作品が寄せられました。その中でも新鮮味にあふれた作品や光線を活かした作品、ちょっと不思議感のある作品などが上位に選ばれました。しかし、肖像権の関係でしょうか、人物を正面から撮影した作品などが少なかったように思います。また、作品に不要な部分が入っていたり、露出が間違っていたりで残念な作品も散見されました。折角の作品ですから撮影時もプリント時も、もう少し慎重に考え、選んでいただけたらと思います。来年の出品に期待したいと思います。

○市長賞 光を捉える蜘蛛の巣 清水政知 海南市

〈評〉 蜘蛛の巣の組写真ですが、見た時に蜘蛛の巣とは思えない素晴らしい表現方法です。

三枚の組み方、色彩もとても良く、真ん中のグリーンの一枚が利いています。作者の創意工夫と感性により、素晴らしい作品になりました。

○市議会議長賞 ふたつの道 鶴田圭吾 和歌山市

〈評〉 逆光に照らされた鉄道線路と車が行き交う道路が対照的に浮かび上がり、画面に強い印象を与えています。さらに、道の先には輝く海が広がり、奥行きと迫れを感じさせます。この瞬間を的確に捉えた作者の感性が光る、魅力的な一枚です。

○教育委員会賞 踊る影 野尻勝大 和歌山市

〈評〉 月にかかる雲が虹色に輝き、長秒露光の効果によって大樹と雲の流れに動感が生まれています。幻想的な光と動きを巧みに捉え、作者の表現意図が余すことなく伝わる印象的な作品です。

○読売賞 時の結び手 辻本ゆう 和歌山市

〈評〉 作者のご家族の手でしょうか？手前の手は若い作者の手と思われず。

右上のお年を召された皺のある手が生きています。世代を繋ぐ手に家族の温かみを感じました。家族の手を撮ろうという発想が素晴らしいです。

○奨励賞 母子 波木基子 和歌山市

○奨励賞 道 面家陸博 〃

○奨励賞 雨、降ってきたね 飯村浩晃 〃

○奨励賞 炎舞 であいのりこ 〃

○奨励賞 one 清水賢治 堺市

○奨励賞	斜光とミツマタ	笠松康作	和歌山市		堀めぐり	小畑光弘	和歌山市
○奨励賞	ミステリーゾーンへようこそ	北 順夫	〃		雨の城	土屋義和	紀の川市
○奨励賞	黄金色の時間	岡本憲治	北杜市		霧情	中 泰一郎	海南市
○奨励賞	朝焼け桜	大橋充幸	海南市		姉と妹	福田明子	和歌山市
○奨励賞	真夏の二重奏	西川友基	和歌山市		山伏の出立つ	久保賀圓	〃
○奨励賞	監視空間	林 鈴子	岩出市		天の川の見張り人	脇村和宏	〃
○入 選	邂逅（偶然の出会い）	山田知恵子	海南市		注意	青木隆幸	〃
	語らい	太田信子	和歌山市		轟	堀川和夫	〃
	ウロコ	面家陸博	〃		森の呼ぶ方へ	森 章二	阪南市
	青春ジャンプ	野島 満	〃		鋼の舞	柳岡正澄	御坊市
	神馬	常田八恵子	紀美野町		大好きな友達	近藤璃亜	和歌山市
	こいのぼり	中道克巳	海南市		光さす竹林	笠松康作	〃
	花すだれ	野尻勝大	和歌山市		西国無情	藤吉修忠	〃
	愛されすぎる街	千原慶士	橋本市		青空の下で	島田健司	〃
	祈りのトンネル	米村昌則	和歌山市		愛のかたち	島田健司	〃
	散華	玉置菜々美	〃		葉の向こうの青	湯川朋香	〃
	約束した場所	酒井雅治	橋本市		異界への誘い	古川陽登	〃
	遭遇	酒井雅治	〃		静寂の中	湯川叶愛	〃
	追憶	前馬定男	有田市		風が見えた日	木村優利	岩出市
	波の音	吉本欽哉	和歌山市		おうちに帰ろう	岸 清楽	和歌山市
	おしどり夫婦	酒井みゆき	橋本市		過ぎてゆく	森川真衣	〃
	コミュニケーション	酒井みゆき	〃		確信犯	大野紗憐	有田川町
	或る風景	西原弘志	和歌山市		川の馬	大野紗憐	〃
	愉快な小馬	西原弘志	〃		夏の記憶	惣出陽香	和歌山市
	凍て樹の輝き	川口喜寛	〃		ハレの日の足跡	惣出陽香	〃
	フォルム	宇佐美公男	橋本市	□無鑑査	Bon voyage	池田義成	和歌山市
	ポインセチアのある風景	児玉 崇	紀の川市		楚々と咲く	松尾昌夫	〃
	暁の干潟	山崎紀久一	〃		提灯回廊	瀧本佳史	〃
	存在	田中美百合	和歌山市		谷間の朝日	児玉正雄	岩出市
	雲輝	田中美百合	〃		巡礼の道	中山知子	和歌山市
	光のライン	山口敏幸	有田市		参堂	山本一也	御坊市
	時空（とき）を歩く天空の森	杉山聖一	和歌山市	□招 待	跳ねる	石橋洋一	和歌山市
	いつか見た夕焼け	奥野充啓	海南市		トワイライト	小西弘子	〃
	溪流に舞う	土井喜澄	和歌山市		ファンタジー	妹背佐江子	紀の川市
	花影めぐりて	出合善昭	〃		霧景	松原勝次	和歌山市
	幸せ時間	太 一男	〃		佳日	榎本隆志	〃
	慈悲の手	森田敏明	紀美野町		通学路	山下廣子	〃
	福娘	川口享子	和歌山市		浄土式庭園	坂口 享	〃
	帰るとしますか	中嶋 嵩	〃		ルミナルエ	小池秀和	〃
	秋の記憶	武西邦夫	〃	□審査員	渡船場	山中健次	かつらぎ町
	水鏡の紅葉	野寄加奈	〃		夏の思い出	中道ちあき	海南市
	忘れられた旋律	鶴谷佳之	〃		残光の波形	山下良富	和歌山市
	夜の宝石箱	鶴谷佳之	〃				
	こう見えて草食です	田中康裕	〃				
	ご案内	神谷輝吉	岩出市				

〔彫塑〕

〔全体評〕

一般3点、無鑑査2点の応募少しずつだが、出品数が増えて来ている事はよろこばしい。今回は特にレリーフ状の作品があり、彫塑の拡がりが出た。

○読売賞 佳月 木下誉国 和歌山市

〈評〉 使用している素材がどのような物か、わからなかったが、面白い質感と感じた。

絵画ではなく、立体感をかもし出して、宙空に浮かぶ月を縦に長く空間をとって表現した。次作が楽しみだ。

唯一無二の青い地球 No war (戦争反対) 千田浩司 和歌山市

笑顔を紡ぐ布袋さま 白川瑞雲 紀の川市

□無鑑査 もう少しはもとに。 寺口雄三 和歌山市

天空への叫び 井上隆好 〃

□招待 Crash or build 大木譲司 みなべ町

□審査員 波頭 岡本勝利 広川町

一歩一歩着実に 松谷靖夫 紀の川市

祈の小舟 橋本和明 湯浅町

〔工芸〕

〔全体評〕

今回前より出品数が多く、ジャンルも陶芸、漆芸、切絵、その他の部門の中から選考致しました。又1席の作品は発想が面白くユニークである、今後楽しみな作品を期待致します。

○市長賞 本宮の神 派谷高明 白浜町

〈評〉 全体を焼メの渋釉でまとめ、下半分は石垣を積んだ様なレリーフで積み上げ上半分は粘土の持つ特性を生かし、紐と球体で型を造り熊野古道をイメージさす作品で、発想がユニークである。

○市議会
議長賞 ツインズ 北澤誓希 かつらぎ町

〈評〉 ツインズと題しているように一對の作品が、共鳴しあいつより二つ並んでいる楽しさと力強さを感じます。技術的にも焼き物のおもしろさを表現している力作です。

○教育委
員会賞 Augen blick 嶋田雅樹 日高町

〈評〉 独楽型の形状に、目の輝きを想像させる意匠に、ひかれるもの、どこか海外の雰囲気感を漂わせる感じがします。唐草紋風にも、人の服にも思わせる加飾にデザイン性の高い、優美な模様で、作者の技に感心しました。

○読売賞 卵殻貼蜂巣文 尾崎哉子 和歌山市

〈評〉 初めての出品作品で、これだけの卵殻貼技法に目を奪われました。蜂の巣を卵殻で貼り、総金箔で貼り、研出しの手に習練された作者に感嘆します。パネルの様でタペストリーとしての用途に思われますが、この意匠を他の形態、形状に例えば、箱の加飾にしても面白いのではと思います。今後の活躍期待しています。

○奨励賞 あなただけを見つめる 湯子達哉 有田市

○奨励賞 吉祥天 野間田繁一 和歌山市

○入選 飴釉鉢 竹本幸雄 和歌山市

桜文の高坏 海老江公司 〃

疾走の記憶 海老江公司 〃

碧き護り 和田佳代子 和歌山市

お昼の私服 伊丹哲哉 美浜町

ふる里への小径 佐古善三郎 和歌山市

菱型八角花器 田中秀直 〃

Mother's Memories 湯子達哉 有田市

百花繚乱 楠本邦子 和歌山市

Comeon	崎本晴美	和歌山市
筒型花器	岩田美子	〃
一隅を照らそう	阪中洋子	〃
炎焔遥原	島 圭佑	海南市

□無鑑査
○無査 鑑賞

マット釉花器 牧野敦子 和歌山市

〈評〉 すっきりとしたフォルムの中にマットの白い釉葉が爽やかな雰囲気を出しています。

花器の形もしっかりしていて梅雨空に活ける花を想像させるような秀作となっています。

鉄赤釉壺	久我口文雄	和歌山市
僂鉋鉢「銀沙」	稲垣博一	紀の川市
夕顔	西岡伊津子	阪南市
陶胎漆器 薔薇	後藤佳世子	和歌山市
夏休み・まり(残り布)	鈴木節子	〃
鉄赤抹茶碗	稲田 績	〃
花影追想	木下美恵子	〃
御影石調花器	岡本昌昭	〃
緑釉流紋鉢「凜」	並松雄二	岩出市
灰釉流滴文壺	宮内 昇	貝塚市
壺	喜彦忠男	有田市
丸酒器	河野ゆみ子	和歌山市
ばらと少女	山田健二	海南市
麻紋広口花入	嶋本博文	和歌山市
鳥~枇杷染とろうけつ染~	田中利恵子	有田市
環	川口典久	印南町
薄端双魚耳付花器	寒川栖豊	白浜町

□招 待

□審査員

一般応募・入賞・入選数

	応募点数	応募者数	入賞者数	奨励賞数	入選点数
洋画	69	66	4	7	55
日本画	6	6	4	1	1
書道	20	20	4	2	14
写真	112	92	4	11	64
彫塑	3	3	1	0	2
工芸	20	17	4	2	13
計	230	204	21	23	149

展示点数

	一般	無鑑査	招待	審査員	計
洋画	66	18	34	5	123
日本画	6	4	10	5	25
書道	20	30	38	4	92
写真	79	6	8	3	96
彫塑	3	2	1	3	9
工芸	19	4	11	3	37
計	193	64	102	23	382

